

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくりまします。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくりまします。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫る美しいまちをつくりまします。

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231

としがく

冬休みお楽しみ会

市民の協力をえて

12月26日(水)の午前と午後に図書館から子どもたち(300名)に大きな大きなプレゼントがわたされました。

冬休みお楽しみ会がそれです。この会は、子どもに読書の楽しさを伝えたり、なんとか自分の本に出会わせてあげたいと、市内で活躍しているお母さんたちが協力してくれました。

盛り沢山のプログラムが用意されました。

喜色満面ノかお・かお

午前10時45分に音楽を流し、雰囲気盛り上げる予定でした。しかし、10時半には、40人ほど会場にきて待つていました。打合せ、会場準備。「おばさん、まだ。」「もう少し待つてね。」いつのまにか開演時間の11時。

プログラムの最初は、絵本「カモさんおとおり」の読み聞かせです。カモのお母さんが、たくさんの子がモをひきつれて移動するというユーモラスな話です。子どもたちは、じつと絵に見入り、話し手

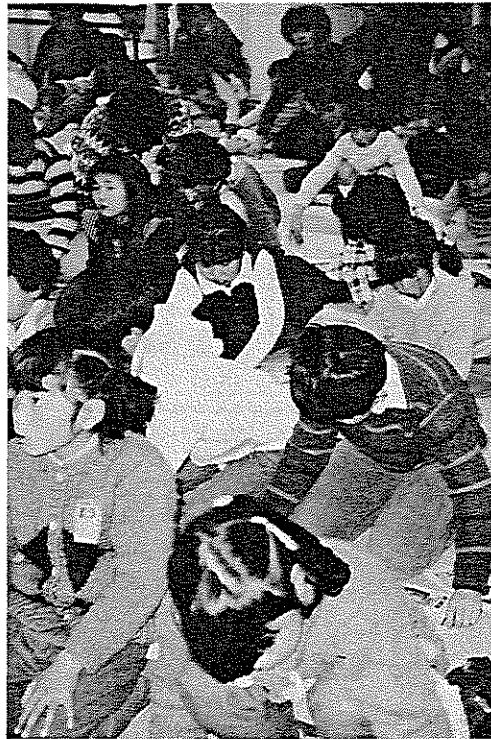
のこばに耳をそばだてていました。

次に人形劇「小さな魔法つかい」。手づくりのかわいらしい人形に子どもが歓声をあげます。お母さんたちは猛ハッスル。魔法使いがほうきにまたがり、子どもたちの間を飛びました。子どもたちは、さわりたくて、さわりたくて仕方ありません。ついに一人が手を出すと、みんながさわるうとします。

喜色満面のかお。かお。

夢中になつて興奮して

「さあ、みんな手を出して。」と指あそび。5本指、雨がざあー



△折ってかぶれば消防士 (折り紙風景)

ざあー。ひと休み。

続いて、科学あそびは、「よわいかみつよいかたち」です。かこさとさんの本をもとに、はがき、おもちゃと玉玉を使った実験です。両はしを台にのせたはがきに5円玉をのせていく説明をしたあと、子どもたちが6つのグループに分かれて実験です。

おっかなびっくり、かわるがわるのせていきます。緊張して、そつと折るようのせて、成功すると、につこり笑い、白い歯がこぼれました。

次は新聞紙を使った折り紙です。帽子ができて消防士、船員さんに

なつて船にのりと、1つのストーリーにあわせて折っていきます。たくさん話術にひきこまれ、子どもたちは夢中で折り紙の世界に遊びます。最後にちぎって、ボロボロのTシャツを着て終わりました。

最後は、「3枚のおふだ」の人形劇です。ご主人が作ってくれた手作りの舞台と演者の手作りの人形。

鬼はばがこぞうを追いかける場面では、かけ合いが始まります。

「こぞうは、どつちだ」

「あっち、あっち」と違う方を指差したり、「知らねえ。」と答えたり、子どもたちは、こぞうを助けるために必死です。

「鬼はばがいるぞ。気をつけろ。」

一生懸命声援を送り、子どもの興奮は最高潮になりました。

ありがとう、お母さん

別れ惜しそに、出演者のお母さんや人形に別れをつげていました。ありがとう、ありがとう。

午後の部も同じように進みましたが、1部プログラムが変わりました。しみじみとした語りで「雪わらしのうた」、人形劇「3びきのこぶた」。夢中で楽しい1日でした。

集まれ!集まれ! タウン誌 特集

「地方の時代」と言われて久しくなります。この間、学生のUターン就職が増え、生活が都市化しているところで特色ある町づくりが進んでいます。地方のよさが改めて見直されてきています。

タウン誌の名称を一躍有名にした雑誌「ぴあ」の創刊が昭和47年栃木県では、それに先立つ昭和44年に「タウン誌うつのみや」が創刊されています。「雑誌新聞総かたるぐ」のタウン・地域誌の頁に

タウン誌 うつのみや



創昭44・12 隔月刊136P 価200円

発ピノキオ社(宇都宮市)

内容 編門脇滋 宇都宮市のタウン情報・歴史・風土・人について。

タウン誌 とちっば



創昭49 不定期60P 価200円

発福田綾(宇都宮市)

内容 編福田綾 エッセイ・人物紹介・タウンレポートなど。

タウン情報 もんみや



創昭52・9 月刊100P 価200円

発新朝プレス(宇都宮市)

内容 編萩原忠吉 宇都宮市周辺のタウンガイド。

PAFM人



創昭56・5 不定期 価200~300円

発パム出版(宇都宮市)

内容 編高久多美男 エッセイ・ルポ・漫画その他のオビニオン誌。

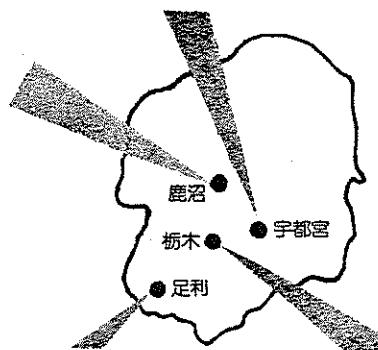
タウン情報誌 かぬまっこ



創昭55・3 月刊48P 価300円

発晃南印刷(鹿沼市)

内容 編阿部勝 鹿沼市のタウン情報。



掲載されている雑誌だけでも、全国で354誌。県内でも、通巻100号の実績を誇る栃木の「うづまっこ」、宇都宮のタウン情報誌として東京まで足を伸ばす「もんみや」をはじめ、近年相次いで創刊され、大田原市の「とちぎネットワークーポン」を含めると合計9誌が、それぞれの地域で活躍しています。地域の情報を住民の手で編集し、住民に読まれるタウン誌。今後ますます発展していきそうです。

みにぶ



創昭55 月刊40P 価200円

発ヴィレッジハウス(足利市)

内容 編野村幸男 イベント・生活情報・街の話題・読物・人物。

月刊 足利漫我人



創昭59・7 月刊48P 価250円

発渡辺啓子(足利市)

内容 編渡辺啓子 足利市のタウン情報・ルポ・インタビュー等。

うづまっこ



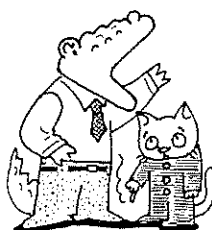
創昭51・8 月刊64P 価300円

発ふろんていあ(栃木市)

内容 編梶原一豊 栃木の歴史・史跡・有名人・職人・若者の紹介。

みなさんの協力を!

図書館は社会教育機関として、社会生活のマナーや図書館利用の注意事項等の指導を行っておりま。利用者の皆様も、青少年の行動についてお気づきの事がありましたら職員にご連絡ください。また、その場での指導、注意、援助等、青少年の健全な育成のために、ご協力をお願いいたします。



本を借りようとした
約 時に予約のサインが出
て、せっかく見つけた
予 本を借りられないこと
がまれにありません。
予約の本は返却され
たときに判別しますが、これはその
のときにもれたものです。予約の
はいつている本は、予約した人にな
るべく早く貸出さなくてはなら
ないので、その時お貸しできない
のです。こういうことがないよう
に充分注意してまいります。が、も
しあった場合にはその旨、ご解
ださるようお願いいたします。

あなたの意見で！

作ろう市民の図書館

目安箱

昨年4月から12月までに、目安箱に寄せられた、みなさんの意見を集計してみました。集計総数は、139件で、別表のような項目に分類しました。

図書やレコードなど資料に関するものが圧倒的に多く、92件あり全体の66%を占めました。うち72件が購入希望に関するもので、「植物の本を増やして」、「料理の本を購入して。」といった特定のジャンルの充実を望む声が多かったようです。

資料の収集・整備は、図書館の大変重要な機能のうちのひとつですが、目安箱に寄せられたこれらの意見を、各分類の蔵書構成に役立て、購入計画の参考にしていきたいと思っています。

本の購入については、必ず書名を記入してください。せっかくのご意見に答えられなくなります。リクエスト制度・書架案内・目録の活用・読書相談などの図書館機能をよく知り、十二分に活用してください。

資料に関するものは、目安箱に

目安箱内容

(S59. 4. 1～S59. 12. 27)

区分	件数	主な内容
資料	92 (66%)	図書、レコードなど資料の購入希望(72件) マンガ(7件)、配架の乱れ(2件) 婦人雑誌を増やして リクエスト図書を速く
閲覧室	13 (9%)	座席数増設(10件) うるさい
管理	12 (9%)	禁煙(2件)、高書架に踏み台を 学生のエレベーター利用、 書見台の設置 自販機設置
運営	5 (4%)	祝祭日開館を 市外住居者にも利用させて
児童室	5 (4%)	紙芝居の配架 5時以降の児童書の返本
その他	12 (9%)	映写会を多く(4件) 職員の態度 目録を見やすく
計	139 (100%)	

投函する前に、まず職員に相談してください。きっと満足いただけると思います。

次に多かったのが、閲覧室に関するものです。夏・春休み、試験前の日曜は、開館するや満席になるため、「座席数を増やして。」という意見が13件中10件もありました。またこの時期は、落書き、おしゃべりなどマナーが低下する時期でもあり、「静かに利用して。」という声も聞かれます。友達どうしでくくるのは結構ですが、図書館での友は、本だけと心得てください。

施設、設備など管理に関する意見は12件ありました。目安箱の意見をもとに、改善、設置したものは、館内ざっと見渡しても、閲覧室の社会人席、水飲み場の踏台、高書架の踏台、書見台の設置、時刻表の掲示、一般開架室での喫煙所の設置などなど、たくさんあります。

このように目安箱は、みなさんの意見を広く求めるだけではありません。実行できるものは確実に、行い、文字どおり図書館運営の目安としていきます。

よりよい図書館にするためには、私達職員の力だけでは限界があります。気がつかないことも多いと思います。これからも、市民のみなさんのご意見をお聞かせください。

励んでください

心の糧としての感謝カード

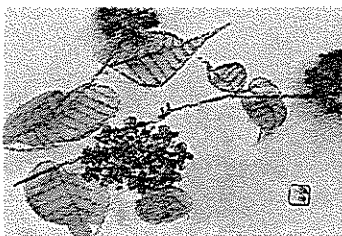
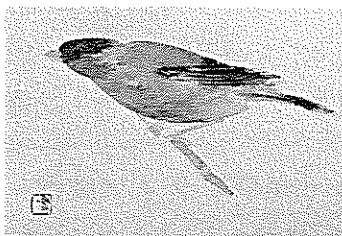
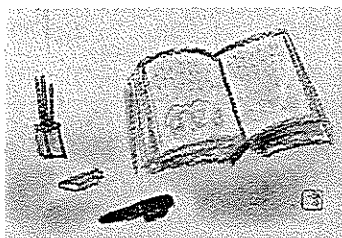
宇都宮市在住の画家、薄久保友司氏の原画により、朗読ボランティア、占訳ボランティアのみなさんの活動に対し、ささやかではありますが、感謝の意を表わし、今後の活動の励みとなるよう。感謝カードを作り、差しあげることにしました。

努力の所産であります。作品1タイトルにつき、1枚のカードをお渡ししたいと思います。

これからのボランティア活動により、テープ図書、点字図書に対してはもちろんです。ボランティア活動の初期までさかのぼり、納められた作品第1号から、差しあげようと考えております。

来る、2月20日、22日が指導者研修の最終日となりますので、そのとき、感謝カードの贈呈を行います。準備をすすめているところ。カードの1枚1枚が、長い道程である奉仕活動の、確実な一里塚になるよう祈らざるを得ません。

朗読奉仕、点訳奉仕は、大変な



感謝カード 絵 薄久保友司氏

子どもの本を考える

宇都宮子どもの本連絡会と共催で、今年度第3回めの「子どもの本を考える講座」を開催します。

日時 2月3日(日)

午後1時30分～3時30分

テーマ わたしと子どもの本

講師 中川李枝子(児童文学者)

場所 市立図書館3階集会室

定員 150名

はがき製本講座

年賀状や身の回りの
はがきを製本し、思い
出の1冊にしてみませ
んか。

日時 2月10日(日)

午後1時30分
～4時30分

内容 はがきの製本

講師 石井力太郎(製本文化技術
賞受賞者)

場所 市立図書館3階集会室

定員 100名

受付 2月1日(金)から

実費 1,200円

読みきかせ講座

子供に喜ばれる読みきかせのし
かたと一緒に勉強しませんか。

日時 2月17日(日)

午後1時30分～3時30分
テーマ 子どもを本好きにするた
めに

講師 湯沢朱実(東京畑保育学院
講師)

場所 市立図書館3階集会室

定員 120名・2月8日(金)から受付

59年度指導者講座終了

昨年4月から回を重ねてきた「朗
読・点訳奉仕員指導者研修講座」
が、2月をもって終了いたします。
通算30回。100名近いボランティア
アの方が参加されまし
た。

ニュース
コーナー

声の図書、点訳図書
を製作しながらの研修
参加で、ご苦労もあっ
たことと思います。
今後のご活躍を期待
します。

16回 映像機技術者養成講習会

日時 2月23日(土)午後1時～7時

と24日(日)午前10時～午後5時

場所 市立図書館3階集会室

対象 市内に住んでいる方で、映
写ボランティアとして活動して
くれる方

定員 30名

受付 2月6日(水)～13日(水)、直接
視聴覚ライブラリーへ

貸出状況

区 分	59年12月	59年度累計 59/4～59/12
登録者数	699人	87,198人
貸出人数	館内	16,260人
	視聴覚	1,733
	館外	2,224
計	20,217	225,048
貸出冊数	館内	54,069冊
	視聴覚	4,029
	館外	10,082
計	68,180	727,298

(注) 登録者累計数は、開館からの累計数

12月の	館内	1日あたり	館外	1ステーションあたり
貸出人数	739人		38人	
貸出冊数	2,458冊		174冊	

利用案内

○開館時間

午前9時30分～午後7時

ただし、児童図書室は

午前9時30分～午後5時

○休館日

毎週月曜日

国民の祝日

図書整理日(毎月初日または翌日)

●貸出点数が変わりました。

図書、レコード等あわせて5
点までだった貸出限度が、資料
の増加にともない次のようにな
りました。

図書・紙芝居 5冊
レコード 3枚
ビデオ・フィルム 5点
あわせて13点まで。

2月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					①	2
3	④	5	6	7	8	9
10	⑪	⑫	13	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	23
24	⑫	25	26	27	28	

3月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					①	2
3	④	5	6	7	8	9
10	⑪	12	13	14	15	16
17	⑱	19	20	⑫	22	23
24	⑫	25	26	27	28	29
30						

ボランティア製作

あたらしい本

点訳図書
▽ドリトル先生の郵便
局(前田たか子)▽イ
ンディラとともに(猪
瀬鏡子)▽旅行かばん
の秘密▽投げろ魔球・
カッパ怪投手(以上小
林ヒサ)

声の図書

▽世界ミステリ全集第五巻(峰岸
欣子)▽宇宙からの帰還(中神さ
とみ)▽浮世に言い忘れたこと▽
ぼくは王さま(以上田中義子)▽
兎の眼(藤田東子)▽昭和史(木
村あい)▽貝になった子ども(西
川絢子)▽すばらしい科学の世界
・人間(島田勝江)▽王さまばん
ざい(安喰とみ子)▽男って何で
すか(広田猷子)

寄贈

栃木県連合教育会「栃木の女教
師」・田代博「三斗小屋誌」・高
橋光広「分校田舎教師の日記」・
下野新聞社「下野新聞百年史」・
戸田博恒「幕臣戸田一族の系譜」
池田貞夫「鹿沼地方におけるイチ
ゴ産地の発展と課題」・小針考哉
「延命地蔵菩薩開帳記」・清原地
区地域振興推進協議会「清原村宇
都宮市合併二十年の歩み」他多数